

会社概要

Company profile

会社名	株式会社ナレッジフォーサイト (英語表記: Knowledge Foresight Inc.)
設立	2004年8月
資本金	2,500万円
代表取締役	鈴木 健 (スズキ タケシ)
取締役	垣見 恒男 (カキミ ツネオ) 孟 宇 (モウ ウ)
住所	【東京本社】 〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-30-17 モナーク都立大6F 【海外子会社】 Knowledge Foresight America Inc. (アメリカ) 39 Deertree Ln, Briarcliff Manor, NY 10510 U.S.A.
連絡先	TEL 03-5729-2838 / FAX 03-6427-7420
URL	http://knowledgeforesight.com/
ISO認証 取得	ISO27001 (情報セキュリティへの取り組み) (東京本社対象) 

業務体勢

Partnership

国内の協力会社はもとより、Knowledge Foresight America Inc. とも連携して活動しています。



顧問

Advisors

法律顧問	弁護士 鈴木 真 (真法律会計士事務所)
会計顧問	公認会計士 大山 毅 (大山公認会計士事務所)

会社案内

Creation of a new possibility

高度な技術を身近なところに活かし、新しいサービスを創造します



株式会社ナレッジフォーサイト

Knowledge Foresight

所在地のご案内



東急東横線「都立大学」駅下車、徒歩3分

株式会社ナレッジフォーサイト

Knowledge Foresight Inc.

〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-30-17 モナーク都立大6F
TEL 03-5729-2838 FAX 03-6427-7420

この会社案内は、2020年1月1日版(第5.0版)です。

SMMSによる IoTサービスの普及に挑戦します

(Simple Multi Monitoring Service)

株式会社ナレッジフォーサイトは、世界的な視野で新ビジネスの可能性を創造するべく、2004年8月に設立しました。社会が多様化・複雑化して行く中で、新しい機器は更にコンパクト化し、技術進化のスピードは更に加速しています。大きな変化の中、常に時代の0.5歩先に焦点を当て、社会が求める新しい技術とサービスの創造を進めて参ります。

ナレッジフォーサイトは、国の研究機関や大手コンサルタント会社より委託を受け、リアルタイム稠密地震観測を始めとする大規模モニタリングシステムの構築、さらに地震カタログデータベース、アメダスデータベース、地形地質データベース、文献データベース等のビッグデータベースの構築を中心に進めて参りました。

ナレッジフォーサイトは、技術進歩の著しいMEMS技術により開発された小型センサー、およびスマートフォンに代表される小型機器を用いてあらゆる場所で安価に各種環境情報のリアルタイムモニタリングを実現、そして構築したビッグデータを解析、データに潜む真の意味を分析、これら弊社が提供するIoTサービスをSMMSと称し普及に挑戦します。

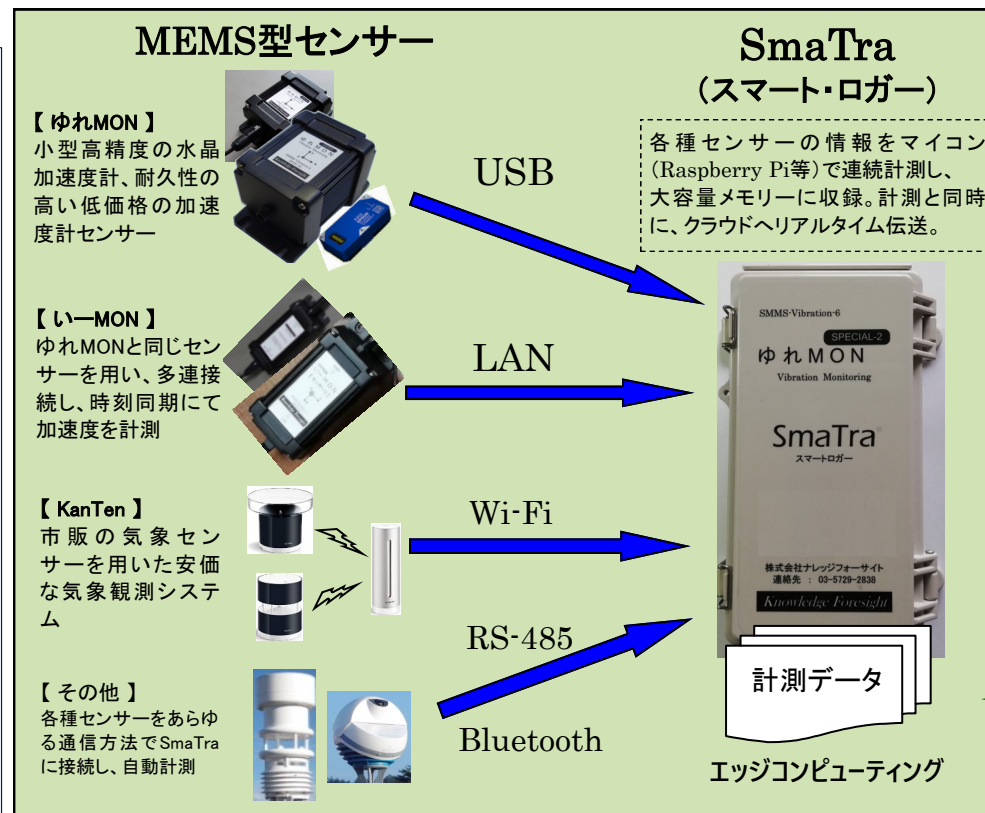
先端技術やビジネスの進展は益々加速し、数年で価値が大きく変わっていく中、ナレッジフォーサイトは時代の変化に柔軟に対応し、常に新しい価値を創造し続ける企業でありたいと願っています。

代表取締役 鈴木 健

Knowledge Foresight は SMMS (Simple Multi Monitoring Service) で IoT (Internet of Things) を推進します

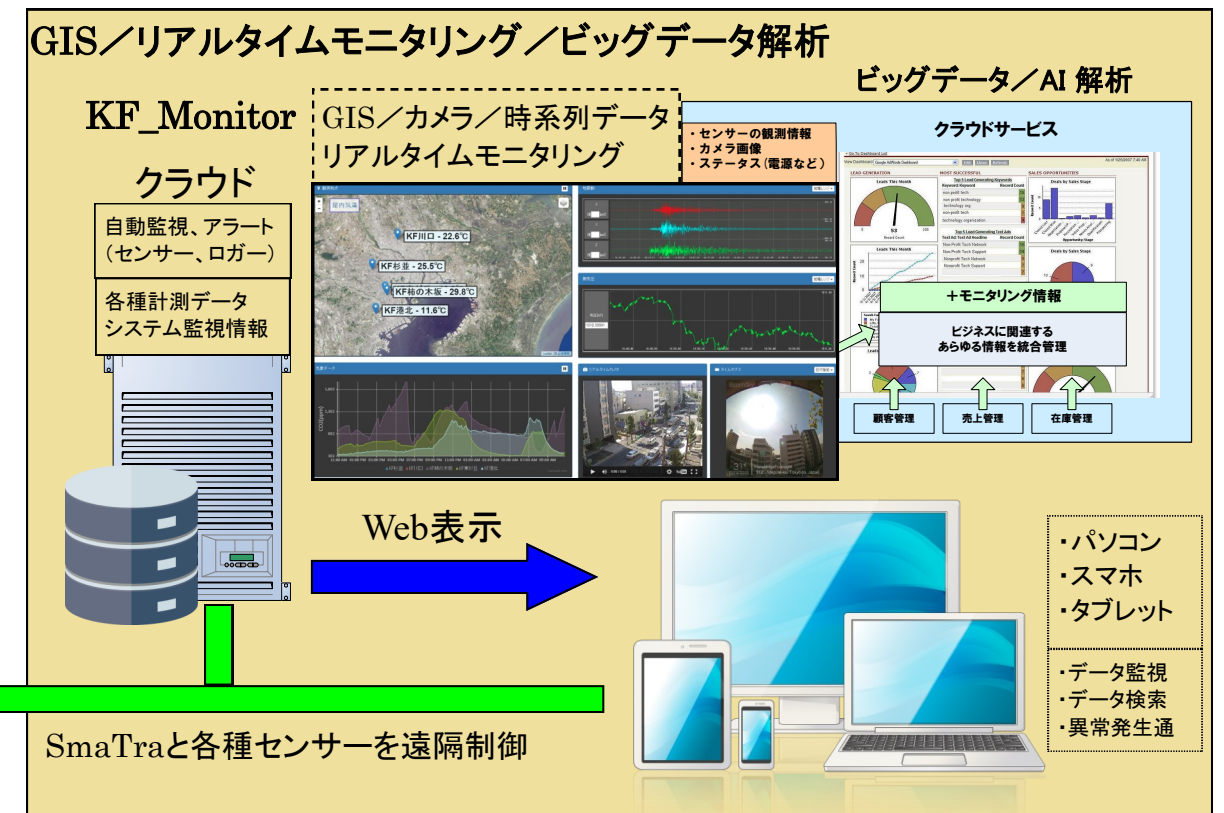
対象分野

防災
都市環境
農林水産
自然環境
学校教育
鉄道道路
その他



3G/4G/5G
リアルタイムデータ伝送

ステータス
位置情報
ロガーの内部監視情報 (温度、電圧、電流他)
センサーの計測データ 加速度データ 気象データ その他、計測データ



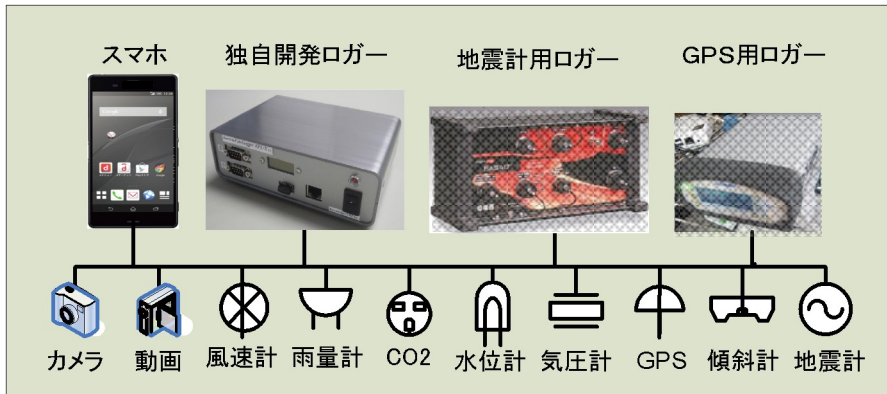
MEMS型センサー+スマートロガー

Webクラウド上にビッグデータ構築

モニタリング+解析結果のWebサービス

【蓄積してきた技術】

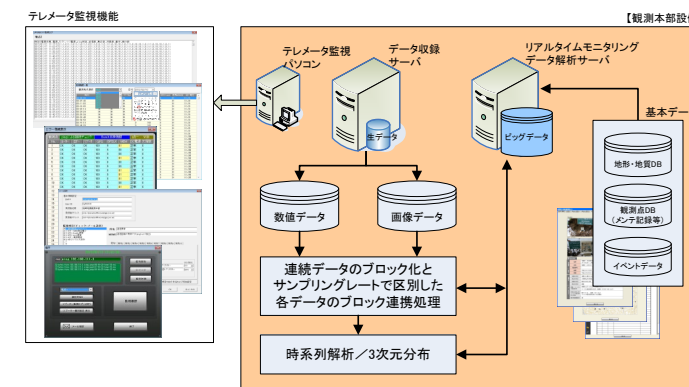
各種センサー毎に専用データロガーによりデータ収集



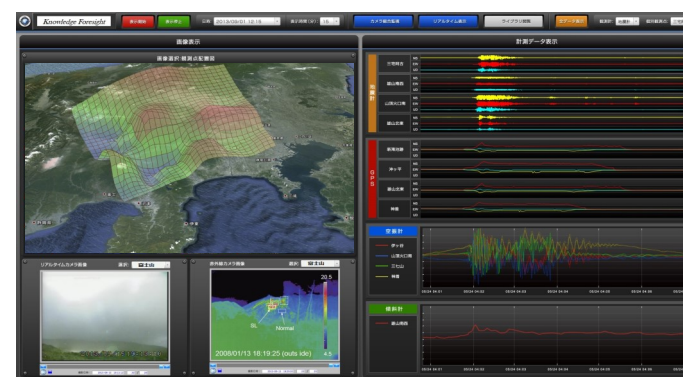
SMMSを実現する弊社コア技術

ナレッジフォーサイトは、これまで受注業務を中心にGISや地震計を用いたリアルタイムモニタリングの地震観測システム等を多く構築してきました。地震計の他、気象センサーについても、それぞれ対応するデータロガーを用いてデータ収集を行なってきました。センサーに対応するロガーが無い場合には、独自にデータロガーの開発を行ないました。要素技術である、センサーの制御、ロガーの制御、最適データ伝送、クラウドの設置、リアルタイムモニタリング、ビッグデータの構築、データ解析、Webサービス、GIS等、全ての技術を一貫通貫で自ら構築してきました。

各種センサーからの自動収集/ビッグデータ構築



各種センサー情報のリアルタイムモニタリング



地震観測データの自動解析処理

